

陸軍少飛平和祈念の会、会報 No23 号

2021(令和 3)年 1 月

◎本会のHPは、<http://sho-hi.sakura.ne.jp/> です。どうぞご覧ください。
◎月例会は、開催を自粛させていただいております。
◎経費節減のため、会報をメール配信に切り替えています。パソコンのメールアドレスを、heiwakinen@sho-hi.jp までお知らせください。

今年もよろしくお願いします。本会には今、元少年飛行兵 34 名一般市民 46 名の 80 名が登録されています。会員の方々、元少年飛行兵の方々から会報を楽しみにしているとお便りを頂いています。精一杯お応えしようと思ひます。皆さんにお知らせしたい事がありましたらご一報下さい。

(1) 当面の月例会の開催自粛

本会の月例会ですが、新型コロナウイルスの感染が拡大し緊急事態宣言が再び発出されました。自粛するのが適当であるとの判断から、当面の間、会合を自粛することになりました。医師でいらっしゃる指田会長のお考えでもありますのでご了承をお願い致します。例会に参加されていた皆様には自粛期間中は資料を作成配布してご意見を伺う予定です。

(2) ビデオ収録の実施状況

令和 2 年 1 月 27 日に 20 期の松原昭次さんのビデオ収録を国分寺市のご自宅で実施しました。また 1 月 29 日 15 期乙の鎌田祐二さんのビデオ収録を広島県広島市のご子息のお宅で実施しました。

新潟日報の特集記事に掲載されていた 15 期乙の樋浦昭二さんが、菊池副会長の同期でジャワの戦友であることが判明し連絡を取りました。ビデオ収録のご承諾をいただきましたが、コロナ禍で実施を延期しています。その他 3～4 名の元少年飛行兵の方々を把握しており、ご承諾を得ながら実施する予定です。

(3) ビデオ収録の文字起こしと証言集第二集以降の刊行について

NPO 法人 FJK (フォーラム自治研究) の協力でビデオの文字起こしを進めています。現在文字起こしに未着手のビデオは 4 人分です。文字起こしの実施中を含め 15 名を超える原稿の作成作業を進めており、写真や経歴を加え、元少年飛行兵の方々に見ていただき修正作業を行っています。

当面 5～6 月を目途に証言第二集と証言第三集の作成を目指します。また

FJK（フォーラム自治研究）と昨年同様の文字起こし契約（9 人分 20 万円）を年度末までに結び費用を支払う予定です。

（4）大竹財団の助成金 50 万円が認められました

かねてより **FJK**（フォーラム自治研究）と協力して獲得に努力してきた大竹財団の助成金ですが、昨年末に申請が受理され支給が決定されたと連絡がありました。大竹財団は「地球に平和を」の理念で戦争の原因となる諸問題の調査研究などを行う団体等に助成金を支給しています。本会が行う証言集の作成や少年飛行兵に関する講演活動等に助成金を使用できます。

（5）会費及び寄付金の御礼及び会計状況

会の会計状況を報告します。11 月末の前回報告以降の大きな出費として広島市への取材費 37,318 円があります。従来からのルールに従って、半額 18,659 円を会負担、半額を個人負担の寄付金繰入としました。その他の主な費用は会報郵送関係 1 万円弱です。この間の収入は 12 月 5 日新潟市の桜井久雄さんから会費前払として 3 千円、12 月 27 日 18 期の松本恒三郎さんから寄付金 5 千円、1 月 10 日に 15 期乙の上野辰熊さんから寄付金 2 万円、1 月 25 日大竹財団から助成金 50 万円、以上の送金及び振込がありました。皆様のご協力によりビデオの文字起こしと証言集の刊行を予定より早く進めることが出来るようになりました。

ご協力に感謝いたします。

令和 3 年 1 月 27 日現在の会計状況は、現金所有 125,413 円、切手所有 580 円、郵便為替 59,250 円、銀行預金 537,588 円、合計 722,831 円です。

（6）NHK ファミリーヒストリーその後

NHK の番組「ファミリーヒストリー」のプロデューサーから協力感謝の手紙が届いています。多くの方に視聴していただいたようで感謝いたします。番組にビデオ出演した本会会員の 17 期元少年飛行兵の佐藤昭さんは、番組終了後、全国にいる知り合いから「見たよ。元気そうでなにより」の電話がかかったそうです。NHK の影響力の大きさを感じます。

（7）少飛 17 期吉田金司さんのビデオ収録の実施

令和 2 年 7 月 18 日、17 期の吉田金司さんのビデオ収録を九段の偕行社で午後 1 時から約 3 時間実施しました。吉田金司さんには本会のビデオ収録などの活動に、早くから積極的にご協力をいただき、関連資料や寄付金を提供していただきました。体調の悪い奥様がいらっしやって、延び延びになってきましたが、日程を都合してご協力いただきました。以下はビデオ収録の冒頭部分で、全文は証言集に掲載します。

● 5人の兄達は皆兵隊だった

吉田金司です。昭和4年4月22日福島県磐城郡内郷村で生まれました。兄弟は、男7人女2人の9人でした。長男、長女、次女が明治生まれ、次男から五男までが大正、六男の私と弟が昭和の生まれです。家は先祖代々の農家でした。父親は私が6歳の時、昭和10年に病死しています。



昭和18年10月に東京陸軍少年飛行兵学校に入学しました。私達は従前の東航と呼んでいました。志願したのは18年の6月か7月、試験は8月だったと思います。志願は私一人で決め、誰にも相談しませんでした。相談する相手がいなかったのです。

というのは、男兄弟7人のうち、私と弟を除く5人まで兵隊に行っていたのです。長男は昭和12年支那事変の勃発直後に中支に派遣されています。農家だったので馬が扱えるので輜重兵（しちょうへい、軍用品の輸送担当）でした。負傷して2年位で除隊になっています。次男以下は徴兵年齢になると検査を受け、甲種合格となってその年に出征しています。次男は朝鮮の名南の山砲連隊（さんぽうれんたい）に入りました。下士官になって憲兵を志願して中野の憲兵学校に入り、成績が良かったので京城の憲兵司令部勤務になりました。終戦の時には27歳だったと思いますが憲兵士官長で除隊になっています。三男は満洲の戦車隊です。フィリピンに転属して、昭和19年12月25日にレイテ島で戦死しています。四男は海軍で海兵隊の衛生兵になってラバウルに行っています。五男は中学校の時に相撲の主将か何かしていて積極的で、19歳の時に陸軍を志願して北支に派遣され、1年後に戦死しています。戦死したのは私が東航に入るひと月前の昭和18年9月25日です。遺骨が届いたのですが金鵄勲章が付いてました。二十歳で兵長でした。七男の弟は普通に旧制中学に入って戦後は会社に勤めています。

●戦況が悪化して軍隊志願に備える

7人兄弟の5人まで兵隊ですぐ上の五男は志願兵でしたので、私が軍隊を志願する事は容易でした。しかし大東亜戦争は、出だしは華々しく提灯行列やシンガポール陥落があったりしましたが、ミッドウェイから急に戦況がおかしくなって、飛行兵の募集も盛んになってきた訳です。私が小学校を卒業

する年は先生から中学校の受験準備をしていた方が良いと言われていたのですが、12月8日に太平洋戦争が始まった訳です。これはのんびりしちゃおれないという事で、普通の尋常高等小学校に入って、次の年に年齢が来るのを待って志願したという訳です。

母親一人でしたが、百姓と言っても一町歩位の面積で、小作の人と当時は銃後のなんとかで隣組が手伝ってくれて、お互いに手伝いっこしてなんとかやっていました。5人の兄と2人の姉は、年の差があったので一緒に生活した事はあまりありませんでした。長男とは20数年離れていて長男の息子は私と同年です。すぐ上の兄達も中学校に行ったりしていたので喧嘩する暇もなかったかったです。そんな家庭でした。

私の村は、常磐線を挟んで西側は常磐炭田なんです。北海道の石狩、九州の三井と三大炭田でした。昼夜兼行で作業をやっている訳です。道路からこっちは農村ですから、その時代水道も電気もないのです。本当に江戸時代の田舎風景だったですね。炭鉱の方は各都道府県からの輸入人口で4万人位いました。宿舎もあって近くに大きな町があるようなものでした。電気は私が十歳位になるまでなかったですね。

小さい子供に「ホヤ拭き」という仕事があったんです。ホヤは油を灯すランプですね。手が大きくなるとホヤを掃除する時に中に手が入らない。幼稚園ぐらいの小さい手がちょうどよかった。農家は人手が揃っている時には田んぼなどを専従で、残っている子供は全員、廊下掃除、雨戸当番、馬の干し草刈りとかの作業割り当てがあるのです。お風呂当番は水道がないから井戸水でやる訳です。ですから後で話が出ると思うけど、少年飛行兵学校に入っても苦勞することはぜんぜんなかったのです（笑）。

陸軍少年飛行兵学校を選んだ理由は、私の家の周りに山があって子供の時に山遊びをしていたのですが、山に登ると戊辰戦争の戦死者の墓がある訳です。明治元年にその山が戦場になっていました。会津の殿様が6年間京都の守護職をして、討伐令を受けて新政府に敗北したのですが、そうした歴史が身近に感じられました。国内の戦争でも敗けると島流しにみたいになってしまうんじゃ、国と国との戦争で敗けたら大変になると思いました。鎌倉時代の元寇でも防人が国を守って戦っていますね。そういうことを思っただけで少年飛行兵を志願しました。当時の少年達が飛行機に憧れていたということも、もちろんあります。陸軍の戦車兵とか海軍の予科練とかもありましたが考えませんでした。兄弟に兵隊が何人もいたから、年に一回位は誰かが休暇とか何とかで帰って来て、軍隊の話などを聞いていたから、どっちかと言えば陸軍の方の血が濃くなっていたんでしょうね。小学校の同級生3人が一緒に試験に行って3人とも合格しています。（冒頭部分のみ）